

出張報告書

平成30年8月1日

議長 京西 且哲 様

会 派 名 自民クラブ

代表者氏名 池内 矢一

下記のとおり報告します。

記

- | | | |
|---|-------|-----------------------|
| 1 | 目 的 | 先進都市 視察のため |
| 2 | 出 張 先 | 長崎県長崎市・長崎県諫早市 |
| 3 | 出張期間 | 平成30年7月17日～平成30年7月18日 |
| 4 | 出張者氏名 | 鳥居宏次・井上源次・岡林憲二・反甫旭 |
| 5 | てん末報告 | 別紙の通り |

長崎県長崎市

日時：7月17日（火） 13:30～15:30

調査事項：長崎市包括ケアまちなかラウンジについて

説明員：安田 静馬（包括ケアまちなかラウンジ 所長）

島村 優子（福祉部地域包括ケアシステム推進室 係長）

内容

長崎市包括ケアまちなかラウンジは、医療や介護、福祉に関する相談を受ける総合相談窓口、在宅医療・介護連携支援窓口として長崎市によって設置され、一般社団法人長崎市医師会が運営している。

事業内容としては、病気や障害により療養を余儀なくされた患者やその家族が、安心して療養の場所を選択し生活ができるよう、これまで医師会が行ってきた「医療支援機能」に加え、介護・福祉の相談等の「包括的支援機能」を併せ持つ総合相談窓口を設置するとともに、市民等への在宅医療に関する普及啓発等の事業を実施している。

さらに、平成28年4月からは市全域の医療・介護・福祉の総合相談窓口としての機能に加え、医療・介護連携の拠点として地域包括ケア推進に向けた多職種連携の拠点、在宅での看取り支援、地域の医療・介護資源の把握、市民啓発に取り組んでいる。

本市においても、少子高齢化や地域包括ケアシステムの構築は大きな課題である。医師会のような関係団体が行政と連携し、このような事業を積極的に実施していることは非常に参考になった。本市も高齢者が安心して暮らせるよう、各関係団体との連携を強化し、各事業を行っていかねばならないと感じた。

長崎県諫早市

日時：7月18日（水） 10:00～12:00

調査事項：中心市街地活性化事業について

説明員：石橋 芳秋（商工振興部商工観光課 課長補佐）

鈴木 司（商工振興部商工観光課 主任）

内容

諫早市の商店街の通行量が約20年前と比べ、事業検討当時、休日は6分の1に減少していた。また、大型店舗の閉店により、地元商店街は危機感を感じていた。そこで、平成11年10月に竹下商店街、本町商店街、栄町商店街からなる「諫早市中央商店街協同組合連合会」（通称：アエル中央商店街）が設立された。合わせて、いさはやアエル中央商店街まちづくり協定も策定された。

そうしたことから、商店街が大型店舗の跡地を取得し、「アエルいさはや」というショッピングセンターを開設した。メリットとしては雇用の確保、景観の保全、居住者の増加、固定資産・都市計画税などの税収確保等が挙げられる。

また、地域の賑わい創出支援事業として「いさはや灯りファンタジア」や「諫早グルメフェスティバル」などのイベントも地域と行政が連携して開催していた。

本市も以前と比べ、商店街の通行量は減少している。商店街や商工会議所の方も危機感を持っておられるのは感じ取れるが、しっかり行政とも連携をして現状を打開しないといけない。諫早市の事例からも、行政が国の支援制度やまちの課題を地域の方と向き合い、協力し合う体制づくりをしないとなかなか前に進まないと感じたので、私たち議員も地域の問題を吸い上げ、市政運営に反映させていきたい。

以上